

東京国立 博物館 ニュース

第680号
展示と催し物
案内

2006 121 2007
月 号



2◎「博物館に初もうで」

3◎国宝 松林図屏風

4◎特別展「悠久の美 中国国家博物館名品展」

6◎特別展「マーオリ ―楽園の神々―」

平常展示見どころ案内2006年12月・2007年1月

8-11◎特集陳列「発掘へんろ―遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波―」／

特集陳列「釈尊―孔子様のおまつり―」／

特集陳列「高野コレクション 浅井忠の油彩画」／特集陳列「インドの細密画」／

重文 男衾三郎絵巻／国宝 楼閣山水図屏風

12-13◎ようこそ！博物館の舞台裏へ
情報管理室の仕事

14◎INFORMATION

15◎TOPICS

16◎2006年12月・2007年1月の展示・催し物

2007年1月2日～28日
国宝松林図屏風 公開

新春恒例 東博で満喫
にっぽんのお正月

博物館に 初もうで

2007年もお正月は2日から開館します。
日本美術の名品はもちろん、和太鼓や獅子舞などの伝統芸能も
お楽しみいただける東博のお正月。美しい日本の文化にふれ、
心豊かな新年のスタートをお迎えください。

博物館に初もうで

2007年1月2日(火)～
1月28日(日)

休館日：月曜日、1月4日(木)
※ただし、1月8日(月・祝)は開館、
9日(火)は休館

新春特別展示

亥と一富士二鷹三茄子 (いのししといちふじ にたかさんなすび)

2007年1月2日(火)～1月28日(日)

もういくつ寝るとお正月。そんな歌が聞こえてくる時期になりました。当館では毎年正月にちなんだ特集陳列をしています。今年、干支の亥(猪)と正月の風物に関連した作品を展示します。

日本の美術で猪を表した作品は決して多くありません。当館の普段の展示でもあまり見かけないのではないではないでしょうか。また、猪といえば猛進を連想しますが、それが画題に取り上げられることも少ないようです。望月玉泉筆の「岩藤熊萩野猪図屏風」は萩の花の中に寝そべる猪を描きます。江戸時代の岡山派や森派の画題である臥猪の影響が見られます。他に埴輪の猪、石川光明作の「野猪」、猪の毛を使った空穂(矢の容器)などを展示します。

さて、正月といえば何を連想しますか。年賀状、書初め、かるた、



岩藤熊萩野猪図屏風 望月玉泉筆 明治時代 19世紀 猪ですが居眠りしています



野猪 石川光明作
大正元年(1912)頃
つぶらな瞳がかわいい

から年賀状を書きました。尾形光琳筆の「宝船図」、鯛をあらわした袱紗などの縁起ものも展示します。初夢で、富士・鷹・茄子を見ることができなかつた方も、ぜひお越しください。雄大な富士、勇ましい鷹、愛嬌のある茄子の姿を博物館でみて、今年の運勢をあげてください。

この他本館10室「浮世絵と衣装」(12月19日～2月18日)・東洋館第8室中国絵画特集陳列「吉祥」(1月2日～1月28日)でも正月らしく吉祥にかかわる作品を展示します。

(丸山士郎)

新春イベント 雨天時は場所を変更、または中止になることがあります。

2007年1月2日

- 10:30 獅子舞 東都葛西囃子睦会 本館前
- 11:00 和太鼓演奏 和太鼓御響 正門内池前
- 12:00 江戸の遊芸 やなぎ南玉 正門内池前
- 13:00 獅子舞 東都葛西囃子睦会 本館前
- 13:30 江戸の遊芸 やなぎ南玉 正門内池前
- 15:00 和太鼓演奏 和太鼓御響 正門内池前

2007年1月3日

- 10:30 獅子舞 東都葛西囃子睦会 本館前
- 11:00 和太鼓演奏 和太鼓御響 正門内池前
- 12:00 クラリネット・コンサート アマトゥール 東洋館エントランス
- 13:30 獅子舞 東都葛西囃子睦会 本館前
- 14:30 和太鼓演奏 和太鼓御響 正門内池前
- 15:30 クラリネットコンサート アマトゥール 東洋館エントランス

いけばな

2007年1月2日～1月14日

池坊・蔵重伸(池坊短期大学教授)
正門、本館エントランス

寛永寺との連携事業

2007年1月2日、3日 10:00～15:00

寛永寺根本中堂特別参拝

根本中堂、徳川歴代将軍の肖像画(油画)を公開します。
当館観覧券の半券(当日分)をご提示ください

新春東博寄席

2007年1月7日 13:30～ 平成館大講堂

出演：金原享馬生ほか

料金：2,000円 全席自由

往復はがきによる事前申込制(2006年12月25日(月)必着)
※当日平常展をご覧ください。※申込方法の詳細は当館ホームページまたはちらしをご覧ください。

問い合わせ先 東京国立博物館 イベント担当
TEL 03-3821-9270

ミュージアムショップからお年玉プレゼント

2007年1月2日、3日

ミュージアムショップで2,500円以上お買い上げの方に
抽選で2007年カレンダー、ミュージアムショップお買物
割引券などプレゼントを進呈
1月2日～1月31日 美術図書バーゲンセールも実施

レストラン・ラコールからお年玉プレゼント

2007年1月2日、3日

お一人様1,500円以上ご利用のお客様に抽選でプレゼント

[A賞] 精養軒オリジナルお菓子 ガトー・セレクション
[B賞] 精養軒オリジナルワイン ハーフボトル(白)1本

ホテルオークラ・ガーデンテラスから甘酒振る舞いサービス

2007年1月2日、3日

レストランご利用のお客様に、甘酒をサービス

これだけは
見逃せない!
おすすめの
この1点

柔らかな光につつまれたふるさとの風景

国宝 松林図屏風

長谷川等伯筆

2007年1月2日(火)〜28日(日)

本館2室 国宝室

朝靄^{もや}につつまれたように、松は
ほんやりと、光と空気にやわらか
く取り巻かれた姿で私たちの前に
現れています。上のほうには、雪を
かぶった山頂がわずかに見えます。

長谷川等伯^{とうはく}といえば、京都の
智積院^{ちじくいん}に伝わる華麗な障壁画でし
ょうか。それとも、しっとりとし
たこの水墨画の松林図のイメージ
でしょうか。この絵については、
故郷の七尾(石川県)あたりの風景
ではないかという仮説が以前から
ありますが、等伯はどうしてこの
ような描きかたで表現したのでし
ょうか。

等伯は若い頃信春という名前で、
北陸(石川県・富山県)で活躍し、絹
に岩絵具を厚く塗って描かれる仏
画や肖像画を制作しました。その
後、畿内に移り住み、大画面の着
色花鳥図や水墨画を本格的に学び、
永徳らの狩野派を脅かす存在とな
ってゆきます。この作品がいつ頃
描かれたのかという問題について
は、最晩年という説と、もっと若

い壮年期という説の二つがありま
すが、いずれも確証はありません。
この絵は、いつ、どこで、だれの
ために描かれたのか全く不明で、
制作当初の姿についても謎につつま
れています。

等伯は、この絵と似た雰囲気
の作品をいくつか描いています。龍
泉庵の「枯木猿猴図」、相国寺の「竹
林猿猴図屏風」、金地院の「老松図」
です。「枯木猿猴図」を見ると、中
国の僧侶画家、牧谿^{ぼくし}の名作、「観音
猿鶴図」(国宝 京都・大徳寺)が手本
となっていることは明白です。等
伯は京都で牧谿の「観音猿鶴図」を
見て強い感銘を受けたにちがいない
りません。等伯は上述のようなそ
のバリエーションともいうべき作
品をいくつも描き、その過程で、
猿も鶴も含まない非常にシンプル
な松林だけの作品が生まれるに至
ったのではないのでしょうか。謎だ
らけのこの作品の前であれこれ想
像するのも、この絵の楽しみかた
の一つです。
(救仁郷秀明)



●松林図屏風(部分) 長谷川等伯筆 安土桃山時代・16世紀 お正月に味わいたいしっとりとした日本の風景

日中国交回復35周年・日本中国文化交流協会創立50周年記念

悠久の美 中国国家博物館名品展

中国古代の悠久の美を厳選して展示する中国国家博物館名品展。
なかでも見逃せない6点をご紹介します。
ぜひ会場に足を運んでじっくりとご鑑賞ください。

彩陶罐 (さいとうかん)

ダイナミックな文様表現

彩陶は中国の新石器時代を代表する土器の一つです。前五〇〇〇年紀に渭水を含む黄河中流域で発達した彩陶は、前四〇〇〇年頃になると、遠くの地域にまで伝わっていききました。なかでも黄河上流域の甘肅省では、光沢のある橙色の器面に渦がうねるような文様を黒で描く、力強い彩陶が作られました。この彩陶罐の文様は上中下の三段に分かれ、それぞれ異なるパターンを繰り返します。上段と中段では、同心円・平行線などがダイナミックに胴部を一周します。下段では波状の曲線文が、器表に落ち着いたゆとりをもたらししています。みなぎる生命感と静かな安定感が豊富な器体に融合した、まさしく彩陶の白眉です。

(川村佳男)



彩陶罐 新石器時代(馬家窯文化)・
紀元前3100年頃～前2800年頃
甘肅省永靖県三坪出土 高さ50cm

四羊尊 (しやうそん)

堂々たる羊の造形と精緻な文様

紀元前十三世紀以降、商王朝の青銅器の影響を受けつつも、長江流域などでは地方独自の青銅器が作られるようになりました。一九三八年に湖南省寧郷市から出土した四羊尊はその典型です。基本的な形態は商王朝の尊と共通しますが、前肢から頭部にかけて羊をこれだけ大きく扱った装飾はたいへん珍しいものです。



四羊尊 商時代・紀元前13～紀元前11世紀
湖南省寧郷市月山鋪出土 高さ58.6cm

複雑な立体造形と器面をうめつくす精緻な文様表現をこれだけ美しく鑄上げることは至難の業。まさに商代青銅器工芸の金字塔といっても過言ではありません。それではこれほど完成された青銅器がなぜ殷墟ではなく、遠く離れた湖南省一帯で生産されたのでしょうか。その答えが明らかになれば、中国古代史は大きく書き変えられることになるでしょう。

(川村佳男)

犀尊 (さいそん)

お供え用の酒の器

たくましい犀の形の青銅器です。尊とは酒を蓄える容器。背中に蓋があり、ここから液体を入れ、顔の右側に作り出した管から注ぎ出すようになっています。とはいえ、持ちやすい形ではないので、酒を入れてお供えとすることを主たる目的として作られたものなのでしょう。犀は何かに気づいたのか、首を左に曲げ、眼を見開いて前方を見つめています。ガラス製の眼とかわいらしい尾が全体を引き締めています。顔と体の全面に、凹凸と金銀の象嵌によって、幻想的な紋様を表しています。これはこの犀が現実の生き物ではなく、神聖な存在であることを示しています。見事な造形に細かい装飾技術があいまって、中国古代の青銅器の名品として知られています。

(谷豊信)



犀尊 前漢時代・
紀元前3～紀元前1世紀
陝西省興平市豆馬村出土
高さ34.6cm

日中国交回復35周年・
日本中国文化交流協会創立50周年記念

悠久の美 中国国家博物館名品展

2007年1月2日(火)～2月25日(日)
東京国立博物館 平成館
特別展示室第3・4室

主催：東京国立博物館 日本中国文化交流協会 朝日新聞社 中国国家博物館
後援：外務省 文化庁 中国大使館 中国文化部 中国国家文物局
協賛：トヨタ自動車株式会社 野崎印刷紙業株式会社
協力：全日本空輸株式会社
観覧料：一般1,300円(1,100/1,000)
大学生800円(700/600)
高校生700円(600/500)
中学生以下無料

()内は、前売り/20名以上の団体料金
障害者とその介護者一名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください

■ 関連事業

① 講演と朗読の会

出演：辻井喬（作家、日本中国文化交流協会会長）、
栗原小巻（俳優、日本中国文化交流協会代表理事）
1月6日（土）13:30～15:00
平成館大講堂

② 記念講演会「中国考古学五千年」

講師：谷豊信（当館列品課長）
1月27日（土）13:30～15:00
平成館大講堂

申込方法：事前申込制（各回定員380名）。

* 官製往復はがきの「往信用裏面」に、郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電話番号・希望日、「返信用表面」に、郵便番号・住所・氏名を明記して下記までお申し込みください。

* 1枚の往復はがきで、1人1イベントのみ申し込み可能。

* 応募多数の場合は、抽選のうえ受講券（1枚で1人受講可）を送ります。聴講無料（ただし、特別展「悠久の美 中国国家博物館名品展」の観覧券が必要）

申込先：〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町
1-28-9 ヤマナシビル4F「悠久の美」イベント係

締 切：① 2006年12月18日（月）必着
② 2007年1月10日（水）必着



玉璜 戦国時代・紀元前4～紀元前3世紀 河南省輝縣市固岡村出土 長さ20.5cm

玉璜（ぎょくこう） 王の胸元を飾る玉

磨くと美しい色艶を発する石を、中国では玉と呼んで古くから愛好してきました。この玉器は細かい細工を施した七個の玉器と、金メッキをほどこした青銅製の金具（二個を組み合わせて、円の四分の一の円弧の形としたものです。玉は白みがかった半透明で、後ろから光をあてると、透けて全体が白く輝きます。動物の全身や龍の頭部が巧みな透彫りで表されています。本来の使用法はよくわかりませんが、装身具として胸の前に下げたのではないかと想像されます。この玉器が出土した墓は、戦国時代の七大国の一つである魏国の王墓である可能性があります。戦国時代の玉器のなかでも屈指の優品です。（谷豊信）

説唱俑（せつしょうよう） 生き生きとした人物表現

説唱俑とは、故事や物語を面白おかしく語り聞かせた芸人の俑。四川省の後漢墓からは、表情も姿勢も多彩な説唱俑が出土します。なかでも本作品は、表情と動きに生気があふれています。脇に抱えた太鼓と足を挙げる滑稽な踊りで拍子をとおりつつ、満面の笑みを観衆に振りまいているのでしょう。その様子は、物語の佳境へと観衆を誘うかのようです。頭巾、腕飾り、長ズボンを身につけて、半裸に裸足といういでたちも微笑ましいです。当時の兵馬俑、侍従俑などは型から同じものを大量生産したため、表情があまりはつきりしません。対照的に、説唱俑の豊かな表情や臨場感は型作りだけでは表現できません。彫刻や粘土のは



説唱俑
後漢時代・2世紀後半
四川省成都市天回山出土
高さ55cm

りつけにより、細部まで丁寧に仕上げられています。（川村佳男）

黒釉三彩馬 唐時代・7～8世紀
河南省洛陽市閼林出土 高さ66.5cm



黒釉三彩馬（こくゆうさんさいうま） 力強い西域の馬

首を左にひねってややうなだれ気味にし、口を少し開けていななくような姿の馬が巧みに造形されています。黒色を主体にし、それに白、緑、茶の各色を効果的に配した優れた色彩表現によって、全身にぐっと力をこめたような量感ある肢体や、いまにも動き出しそうな顔貌などの造形が一層際立って見えます。唐時代には、この作品にみられるように、少し足が短く、短軀でずんぐりとした体つきをした西域産の馬がもともと良質な馬としてもはやされたらしく、同様の体型をした大小さまざまな馬俑の作例が今日でも大量に残されていますが、それらの中でも、この作品はことに傑出した出来栄を示しています。（松本伸之）

ニュージーランド国立博物館 テ・パパ・トンガレワ名品展

マーオリ 楽園の神々

1000年前、伝説の地ハワイキからカヌーに乗ってやってきたマーオリ。

以来、楽園の島ニュージーランドで花開いたマーオリの文化を紹介します。広くおおらかで、強く美しい魂を感じさせるマーオリの神々の造形は、あなたの心に楽園の風をもたらせてくれるでしょう。



写真1 マゴー・タニファ
[サメ]の歯の首飾り

海の人 マーオリ
伝承によると、マーオリ人はふるさとハワイキからカヌーに乗ってニュージーランドに移住しました。ニュージーランドにマーオリ人が定住して以来の初期の作品には、太平洋の先祖たちの伝統を垣間見させるような一面があります。その一方で、熱帯地方で見られなかったような新たな特徴もだんだんと現れ、マーオリの独自の美術に発展していきます。
ホホジロザメの歯を加工したマゴー・タニファ「サメ」の歯の首飾り（写真1）は、七つの部品がきれいに並ぶように根元に加工がされています。

さ、獷猛さのゆえに畏敬されています。

建築を飾る木彫

食料や貴重品を納めた

パータカ「高床倉庫」（写真2）には、細かな彫りが施され、先祖との結びつきを示しています。パータカは首長の家の近くに建てられました。パータカがあることによって、首長が裕福であり、富を部族員や遠来の客に気前よく分け与える徳を具えていることが示されるのです。

会議の場となるファレ・ツプナ「集会所」（写真3）は、中央の顔が先祖の頭部、両側に斜めにおりる破風が先祖の両腕、そして両側の前面柱が歴代の先祖を表しています。

入り口の外側は戦争の神が、内側は平和の神が支配する世界です。会場ではパータカとともにファレ・ツプナ「集会所」を実物ながらに組み立てます。その大きさと精巧な浮き彫りを堪能ください。



写真2 パータカ[高床倉庫]



写真3 ファレ・ツプナ[集会所]

マーオリ — 楽園の神々 —

2007年1月23日(火)～3月18日(日)

東京国立博物館 平成館 特別展示室第1・2室

主催：東京国立博物館

ニュージーランド国立博物館テ・パパ・トンガレワ

後援：ニュージーランド大使館 ニュージーランド政府観光局

協賛：トヨタ輸送株式会社 トヨフジ海運株式会社

協力：ニュージーランド航空 松下電工株式会社

* 平常料金でご覧いただけます

マーオリの心を表す武器

マーオリは武勇で知られた民族です。マーオリの伝説にはイウィ（部族）の間の抗争が語られ、来航したヨーロッパ人とも果敢に戦いました。その勇敢な民族性は、ニュージーランドが誇るラグビーの世界最強チーム、オールブラックスにまで受け継がれていると言つてよいでしょう。

さまざまな種類の武器の中には、それを所持した歴代首長の物語が込められています。

写真のメレ・ポウナム「軟玉製棍棒」[写真4]は「タフイット・フェヌア」と名付けられ、最初、ガーツィ・イラ族の首長テ・ケレグが所持していました。彼と母はガーツィ・トア族の首長テ・ラギハエアタによって処刑されそうになりましたが、母の辞世の歌に心打たれたテ・ラギハエアタが二人の命を救うと、テ・ケレグは感謝の印としてこの「タフイット・フェヌア」をテ・ラギハエアタに譲ったのです。

華麗な衣装と装身具

マーオリ人の先祖たちは、太平洋の熱帯の島々で裸で生活していましたが、寒冷なニュージーランド



写真5 カフ・クリー「イヌ皮のマント」

ドではそうもいきません。マーオリ人はムカ（マオランの繊維）をわざわざかくして編み、カフ（マント）を作つて羽織りました。

カフ・クリー「イヌ皮のマント」(写真5)のクリーとはイヌのことをいいます。イヌは太平洋の長い旅路以来、マーオリ人の先祖とともに過ごした唯一の哺乳類でした。このマントでは、イヌの皮はハラケケ（マオラン）の丈夫な下地に縫いつけられています。

マントはラガツィラタガ（権力）を、マントを贈ることはカイツイアキタガ（保護）を意味しました。このほか、ニュージーランド特有の色とりどりの鳥の羽が、マントを飾るために用いられました。会場で実物の光沢や質感をご確認

ください。

装身具は、身につける人のマナ（威信）や精神の力に関わるもので、頭や首など、体の中でも神聖な部位につけました。

マーオリ人にとって、人体の中でも最も神聖な頭部を飾つたのがヘル[櫛](写真6)です。ヨーロッパ人が来航した頃、マーオリの男性は長髪を編んで髻にし、ヘルで

写真6 ヘル[櫛]



飾りました。ここでも小さな人物像が彫り出され、やはりアワビの殻が眼の表現に用いられています。これらの装身具は、精巧なタリー・モコ（入れ墨）とともにマーオリ人の体を美しく飾つたのです。

(白井克也)

■ 関連事業

①記念講演会

「マーオリはどこから来たか」

国立民族学博物館教授 印東道子

2007年2月3日(土)13:30~15:00(開場13:00予定)

会場：平成館大講堂

定員：380名(事前申込制)

②日本ニュージーランド学会との連携講演会

「マーオリのKORU—過去と未来を結ぶもの—」

武威大学社会学部教授 内藤暁子

「クジラの島の少女の世界」

弘前大学人文学部助教授 澤田真一

2007年2月10日(土)13:30~15:00(開場13:00予定)

会場：平成館大講堂

定員：330名(事前申込制)

申込方法：官製往復はがきの「往信用裏面」に希望日、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を、「返信用表面」に郵便番号・住所・

氏名を明記の上、下記までお申込ください。

*1枚のはがきで、1人1講演のみ申込可能

*応募多数の場合は、抽選のうえ受講券(1枚で1人受講可)を送ります。

聴講無料(ただし当日の入館料が必要です)

申込先：〒110-8712 台東区上野公園13-9

東京国立博物館 教育講座室「マーオリ展講演会」係

申込締切：①2007年1月17日(水) 必着

②2007年1月24日(水) 必着

③映画上映

「クジラの島の少女(原題:Whale Rider)」

マーオリの少女を主人公とした珠玉の作品。民族の伝統と現代社会のはざまでゆれるマーオリの人々を描いています。展覧会でご覧いただく作品と同種のものが映画のさまざまなシーンに登場します。ぜひ展覧会とあわせてご鑑賞ください。

2007年2月6日(火)、7日(水)、8日(木)、9日(金)、11日(日)、12日(月・休)

各日2回 10:30~、14:30~

会場：平成館大講堂

定員：380名 料金：無料(ただし当日の入館料が必要です)

注目の 特集

平成館企画展示室

四国四県の発掘成果を披露

特集陳列「発掘へんろ―遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波―」

2007年1月16日(火)～3月18日(日)

今年度の考古相互貸借事業に伴う特集陳列は、「発掘へんろ」と題して、四国四県の最近の発掘調査の成果を展示します。四国四県では、平成16年度から、相互の理解と連携を深めるために、各県の発掘成果を集めた「発掘へんろ」と題する展覧会を四国四県で巡回展示

する試みを始めました。今回の展示は、東京での出開帳という形で企画されたものです。縄文から江戸時代までの様々な出土品を集めたほか、「癒しと祈り」というテーマでの展示も行います。縄文時代の土偶、弥生時代の絵画土器、絵画銅剣(模造)、弥生・古墳時代の

ト骨、古墳・平安時代の木製品、世の白磁四耳壺、江戸時代の呪符木簡など、バラエティーに富んだ内容です。なお、期間中、講演会と展示解説が行われますので、あわせてお楽しみください。

(望月幹夫)

田村遺跡群出土の弥生土器 弥生時代・前4～前3世紀 全国有数の弥生集落である高知県南国市田村遺跡群から出土した、南四国型と称される独特の弥生前期土器群



【展示解説】

1月31日(水)11時～ 香川県埋蔵文化財センター 文化財専門員 北山健一郎
 1月31日(水)14時～ 香川県埋蔵文化財センター 文化財専門員 森下英治
 2月14日(水)11時～ 愛媛県教育委員会文化財保護課 埋蔵文化財係長 日和佐宣正
 2月14日(水)14時～ (財)愛媛県埋蔵文化財調査センター 主任調査員 多田仁
 2月21日(水)11時～ 高知県教育委員会文化財課 社会教育主事 池澤俊幸
 2月21日(水)14時～ (財)高知県埋蔵文化財センター 調査課長 廣田佳久
 2月28日(水)11時～ 徳島県教育委員会文化財課 社会教育主事 辻佳伸
 2月28日(水)14時～ (財)徳島県埋蔵文化財センター 主任調査員 田川憲
 3月7日(水)14時～ 当館上席研究員 望月幹夫、列品課主任研究員 日高慎
 会場：平成館 企画展示室 3月7日のみ大講堂
 聴講無料(ただし平常展入館料が必要になります)

【講演会】

3月3日(土)13時30分～15時 徳島文理大学教授 石野博信
 「四国の初期古墳と大和」

定員：380名(事前申し込み制) 会場：平成館大講堂

申込方法：官製往復はがきの「往信用裏面」に希望日、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記の上、下記までお申し込みください。

*1枚のはがきで、1人のみ申し込み可能

*応募多数の場合は、抽選のうえ受講券(1枚で1人受講可)を送ります。
 聴講無料(ただし当日の入館料が必要です)

申込先：〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館
 教育講座室「考古講演会」係

申込締切：2007年2月14日(水)

本館15室 民族資料

細工を凝らした刺繍や道具

特集陳列「アイヌの飾り」

11月28日(火)～2007年3月4日(日)
 12月18日(月)～2007年1月1日(月)は閉室



アットウシ 樺太アイヌ
 19世紀 平子はつ氏寄贈
 子供用でも飾りは大人と同じ(11月28日(火)～2007年1月21日(日)展示)

アイヌの人びとは衣服や装飾品、日常使われる道具類をさまざまな文様で飾りました。布と糸と針で紡いだされた飾りは女性の手で、マキリなどを使って彫刻された飾りは男性の手で施されます。こうして表された文様には、代表的なモレウと呼ばれる渦巻き文や、アイウシ文と呼ばれる棘をもったものなど多彩な種類があります。写真のアットウシは、伝承されることが極めて稀な、実際に子供が着ていたものです。襟、袖口、背中、裾に紺木綿裂を置き、その上に木綿糸で刺繍を施しています。

この特集陳列では、生活に密着した木彫や衣服など、アイヌの人びとが丁寧な施した多彩な飾りを紹介いたします。一つひとつの細工の美しさを是非ご覧ください。(日高慎)

本館16室 歴史資料

平安・明治の釈奠をめぐる資料

特集陳列「釈奠

―孔子様のおまつり―

2007年1月2日(火)～2月25日(日)

釈奠(しゃくでん)は、もともと古代の中国の学校において、食物や酒をささげて孔子やその弟子たちを祭った行事です。日本では文武天皇の時代に大学寮ではじまり、中世を経て、近世には湯島聖堂、藩校などで季節ごとに行われました。今回の展示は、国宝「延喜式」をはじめ、絵巻物、詩懷紙、肖像画、絵図、写真、絵葉書など、



釈奠図(部分) 明治時代・19世紀
 孔子像に供物をささげている

平安時代から明治時代までの釈奠の沿革を伝える資料をご紹介します。なお本館14室では特集陳列「釈奠器―湯島聖堂伝来―」として、安永元年(一七七二)に聖堂が火事で全焼した後、諸大名家より奉納された祭器などを展示いたします。あわせてご覧ください。(高橋裕次)

日本近代洋画の先駆者・浅井忠の代表作
特集陳列「高野コレクション」——浅井忠の油彩画」

2007年1月2日(火)～2月12日(月・休)

明治の洋画家・浅井忠は、日本近代洋画の先駆者と呼ばれ、西洋画壇の育成に大きく貢献しました。高野コレクションは、実業家高野時次氏が集めた浅井作品七十三点で、氏のご遺志によりご遺族の方々から当館に一括寄贈されたものです。

今回は、このコレクションのうち、代表的な油彩画五件をご覧いただきます。そのなかで滞欧中に描かれた「婦人像(部分)」

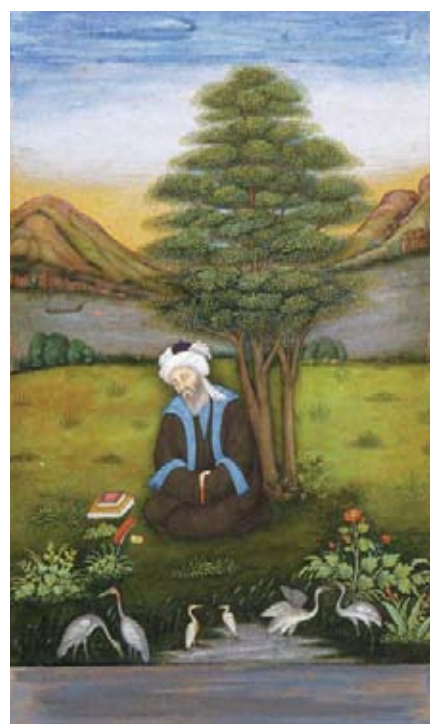
浅井忠筆 明治34年(1901)頃 高野時次氏寄贈 浅井の人物像の力作



婦人像(部分) 浅井忠筆 明治34年(1901)頃 高野時次氏寄贈 浅井の人物像の力作

多様なスタイルを一望する
特集陳列「インドの細密画」

12月12日(火)～2007年3月4日(日)



木の下で思索する托鉢の聖者 ムガル派 17世紀 半ば 画風や人物の服装にペルシャ絵画の影響を色濃く残す(12月12日(火)～2007年1月21日(日)展示)

昨年度の新収品としてインド細密画一九三点が加まりました。このたび、特集としてその一部をご紹介します。ムガル王朝成立以前の十五世紀末から十九世紀までの時代に描かれた作品五十点を、

会期の前半と後半で二十五点ずつ展示します。ペルシャ絵画の影響を受けて成立したムガル絵画、そのスタイルがインド各地に広まった地方ムガル派。西、北インドの各地で描かれたいわゆるラージプト絵画では、マールワー派、メーワール派、ビカネール派、ブンデイ派、ジャイプール派など西北インドに展開したラジャスタン絵画、カニングラ派、グレル派など北インドに展開したバハリー絵画など、多様なスタイルの絵画が並びます。細密画に描かれた当時の支配者、神話世界、ヒンドゥー教の神々、男女の愛を鑑賞ください。

(小泉恵英)

文化の融合が生んだ錦や金襴
特集陳列「遼・元の染織」

12月12日(火)～2007年3月4日(日)

遼(九一六～一一二五)は内蒙古の遊牧民族であった契丹族が、元(一二七一一一三六八)はモンゴル帝国が中国に建てた国です。伝統的な漢民族の文化を継承しつつ、それぞれの文化を移入した点に両国の染織の特色が見られます。これまで不明な点の多かった遼代の錦は、近年の発掘品調査によって、遼代に開発された組織であることが明らかとなりました。

元代には、西アジアの技術を導入し金糸を織り込む技術が発展し、良質

な金襴が生産されるようになりました。動植物文様を織り出したカラフルな緯糸(日本では綴織)も盛んに制作されました。遼代の錦、元代の金襴・緯糸を中心に、漢民族と異民族の文化が融合して生まれた二国の染織の特色をご覧ください。

(小山弓弦葉)



緯糸 紅地牡丹龍鳳花鳥鹿文様 元時代・13～14世紀 元代の緯糸。蛍光発色の美しい紅色が特色



本館2室 国宝室

道風三十四歳の自筆

国宝 円珍贈法印大和尚位並智証大師諡号勅書

小野道風筆

2007年1月30日(火)～2月25日(日)

●円珍贈法印大和尚位並智証大師諡号勅書(部分) 小野道風筆
平安時代・延長5年(927) 豊潤さの加わった柔軟な書風が冴える道風の遺墨



勅書とは律令の公式令によれば天皇の命令文書の一つと規定されています。内容は延長五年(九二七)に既に死没していた円珍に「法印大和尚」という位と「智証大師」という号を贈る旨を、文書行政を担当する中務省に伝えたものの写しです。特にこの勅書は、『帝王編年記』より小野道風(八九四～九六六)の筆跡とされ、当時少内記(宮中の記録係)の任にあった道風三十四歳の自筆本として有名なものです。量感あふれる豊潤で重厚な筆致で揮毫されています。和様の祖として名高い道風の能書ぶりを十二分に発揮した作品です。(高梨真行)

本館3室 宮廷の美術

継子いじめと観音さまの物語

重文 男衾三郎絵巻

11月21日(火)～2007年1月14日(日)

武蔵国で、都ぶりに暮らす吉見二郎と、醜女をめぐって武芸に励む男衾三郎という兄弟武士にまつわる物語です。兄の二郎は、観音に祈って「慈悲」という美しい女兒を授かります。しかし兄の戦死後、その妻子を引き取った弟の三郎夫妻は、「慈悲」を下働きとして酷使します。絵巻物の後半部が現存しませんが、平安文学でも多く取り上げられる「継子いじめ」を話の筋としつつ、これを観音の救済話として

本館7室 屏風と襖絵

中国文人世界へのあこがれ

国宝 楼閣山水図屏風

12月19日(火)～2007年1月28日(日)

全体に金箔を貼り付けた総金地の屏風に、洞庭湖を見下ろす岳陽楼と、山中の醉翁亭が対で描かれています。岳陽楼は杜甫の詩でよく知られ、醉翁亭は欧陽脩のために建てられたものとして、中国の文人世界を象徴しています。中国の文人世界に憧れ、自由な精神で作品を描いた池大雅(一七二三～七六)は、日本南画の大成者とされています。本図にも手本となった中国の絵があることが知られています。力強い墨と、

へと変容させた内容と推測されます。地方武士の生活の様子や四季の風物描写も見所です。(行徳真一郎)



●男衾三郎絵巻(部分) 鎌倉時代・13世紀 貴族風の吉見二郎の邸内。その作風は、永仁3年(1295)頃制作の「伊勢新名所歌合絵」とよく似ています



●楼閣山水図屏風(部分) 池大雅筆 江戸時代・18世紀 因伊能氏寄贈 小さな画帖から屏風に拡大された大雅憧れの文人世界

本館13室 陶磁

三次元になった絵画

瑠璃地露文三壺形小皿

12月17日(日)まで

木盃形の円形皿に、洗練された意匠が描かれるというのが鍋島のある方です。ところがこの小品の皿は、横から見た姿は木盃形と同様ですが、上から見た姿は、三つの壺を重ねた姿を切り抜いた形に作られています。それを瑠璃色に染め、濃い染付で描かれた露が印象的です。

展示室では隣作品と比べてみてください。同じ三つの壺の組合せを描くことで表現しています。

本館13室 漆工

秋草蒔絵の傑作

重文 砧蒔絵硯箱

12月17日(日)まで

(特集陳列「秋草の蒔絵」より)
蒔絵の作品には、秋の植物や風景をモチーフとするものが数多く見られます。しかし、秋草を蒔絵で描きながら、この硯箱ほど晩秋の寂寥とした雰囲気表現された作品はありません。図は蓋の表で、牙々と輝く月の下、女郎花・桔梗・藤袴などが可憐に咲き乱れる秋の野に、枕がぼつんと置かれています。裏側には砧を打つ男女の姿が描かれており、「衣うつ音をきくにぞ知られぬる 里遠か

絵画が三次元化していく面白さがここにあります。(伊藤嘉章)

瑠璃地露文三壺形小皿 鍋島 江戸時代・17世紀 皿だつて、丸くなくたていいじゃないか



らぬ草枕とは」という和歌を表わした意匠です。歌の意味とあいまって、秋の夜長の冷たく研ぎ澄まされた空気までが感じられます。(竹内奈美子)

●砧蒔絵硯箱 室町時代・16世紀 画中には「しられぬる」の文字が隠されており、和歌のヒントになっている



目を見張る刀身彫刻

脇差 銘(葵紋)以南蛮鉄於武
州江戸／越前康継

2007年1月2日(火)～4月1日(日)

越前康継(二代)は江戸時代始めの刀匠で、父の初代康継は、徳川家康より「康」字と葵紋を与えられ、將軍家抱工となりました。本作は二代康継の代表作で、つんだ板目の鍛えに、のたれに互の目を交えた大模様の刀文を焼いています。表裏の濃密な彫物がこくに目を引きます。装飾的な刀身彫刻は初・二期の刀剣に通じる特色ともいえます。銘には南蛮鉄という南蛮貿易で輸入された鉄を素材に用いた旨が記されています。おそらくこれは將軍家より下賜されたと推測されます。(酒井元樹)



脇差 銘(葵紋)以南蛮鉄於武州江戸／越前康継
舶来の鉄、南蛮鉄を用いた二代康継の名刀

パリに渡った虎の親子

岩上双虎置物
鈴木長吉作

2007年3月25日(日)まで
12月18日(月)～2007年1月1日(日)は閉室

「ごつごつとした岩の上に一頭の虎が座っています。岩の下方の穴には子虎が心配そうに顔を覗かせています。親虎が肩をいからせ鋭い目つきで威嚇するのは、子虎を守るためなのでしょう。蠟型で親虎と岩と一緒に、子虎は別に鑄造しています。親子とも毛並みを細かな線刻で表しています。」



岩上双虎置物 鈴木長吉作 明治33年(1900) 子を守ろうとする親虎の鋭い目つきと心配そうな子虎の表情に注目

鈴木長吉は明治を代表する金工家で、動物の鑄造を得意としました。明治三十三年(二九〇〇)のパリ万国博覧会の出品です。(加島勝)

東洋館第2室 アジアの考古遺物

「悠久の美」を見たら東洋館へ

銅鼓

2007年4月1日(日)まで

お正月に開幕する特別展「悠久の美 中国国家博物館名品展」に、貯貝器という青銅器が展示されます。本来は貝殻を宝物として収納した容器ですが、蓋の上に鑄造された小さな群像が目を引きまします。ひととき目立つ太鼓があります。これは中国南部や東南アジアに分布する銅鼓(青銅製の太鼓)のミニチュアです。二千年以上前から祭礼などの重要な場面で使われてきました。東洋館第2室でこの実物が皆様のお越しをお待ちしております。(川村佳男)



(右) 貯貝器の蓋に鑄造されたミニチュア銅鼓 中国国家博物館所蔵
(左) 銅鼓 伝タイ出土 青銅器時代・紀元前6～紀元前5世紀 東京出光美術館蔵



レプリカで見る古代の馬具

馬冑 常設展示

東博の展示室では稀なレプリカを御紹介します。紀元前には中央アジアの騎兵戦法が大陸に拡大し、中国は三世紀、朝鮮半島は四・五世紀に重装騎兵が現れますが、六世紀以降は軽装騎兵中心で、中国では馬冑は儀礼的装備に変化します。日本では五世紀以降、金銅製の華麗な馬具が発達しますが、馬冑が遅れて六世紀に出現することはその性格にも関係がありそうです。三世紀以降、統一王朝不在の激動の東アジアで、同じ最新装備に対する



馬冑(レプリカ) 彩色樹脂製
原品=和歌山県和歌山市大谷古墳出土
(文化庁蔵・和歌山市立博物館保管)
古墳時代・6世紀

大陸・半島と列島の接し方の違いに地域の個性が表れています。本品は平成館開館にあわせ、国内三例のうち唯一完全な資料から製作されました。現代の模造技術のすばらしさと共に、古代東アジアに想いを馳せて頂ければ幸いです。(古谷毅)

法隆寺宝物館第6室 染織

発色の良さはさすがに法隆寺の染織品

重文 蜀江錦綾幡

12月26日(火)～2007年1月28日(日)

一三〇〇年以上も経過したとは思えない鮮やかな色彩を保っているこの幡は、法隆寺献納宝物を代表する染織

の優品です。幡は仏堂の内外を飾る莊嚴具の一つでもあり、延命や追善供養のために奉納されたものもあります。人体を表したごとく、頭にあたる幡頭、胴に相当する幡身、足となる幡足からできています。幡身部に二種類の蜀江錦と呼ばれる赤地の錦等を用いており、この幡を大形にした蜀江大幡が奈良・法隆寺に遺っています。もとは法隆寺の大幡と一具をなしていたものと推定されます。(澤田むつ代)



◎蜀江錦綾幡(幡頭・幡身部) 飛鳥時代・7世紀(法隆寺献納宝物) 欠失した部分が修理により和紙で復元された



情報管理室長 田良島哲さん

博物館の情報管理と聞いて、どんな仕事なのか具体的なイメージがうかぶ人は少ないと思います。まずはそのあたりから室長の田良島哲さんに説明してもらおうことにしましょう。

東京国立博物館の情報管理室は、資料館にあります。資料館は、美術史や考古学に関する書籍・展覧会カタログ・写真資料等を保管・公開する施設です。さらに資料館には、館の情報の中核ともいえるコンピュータのサーバが置かれており、東博の所蔵作品に関わる膨大なデータが集積されています。博物館の情報はここに集約され、さまざまな形で公開・利用されているのです。

情報管理ってなに？



情報管理室のある資料館

長く携わってきました。「博物館にあるものは、そのほとんどが寡黙な資料なのです」え？ 寡黙とは？ のっけから不思議なお話です。「古文書などの文字資料は別として、博物館にある多くの作品はそこにあるだけではなにも語らないでしょう。博物館の役割は、それがなにか、いつ作られたのかなど、ものやものの情報を研究によって引き出してやることです。そして、得られた情報は自分だけわかっている、あるいは自分だけでもつていては意味がありません。そこで、他人がわかる形に整理し、公開することが重要な仕事なのです」なるほど、たしかに情報の整理と伝達は博物館の仕事の基本といえるようです。では、情報の整理とはどんなことをさすのでしょうか。「たとえば、名称・時代・品質・形状など、一定の規則で情報を切り分け、みんなが理解しやすい形に整えていくのです。さらにそれを公開し、生かしていく。それが私の所属している情報管理室の仕事です」博物館には作品を保存・管理し、



第13回

博物館の情報をいかすために

情報管理室のしごと

東京国立博物館の所蔵する11万件を超す膨大な所蔵品。

それらの所蔵品に関する文字情報、画像情報、研究情報を整理し、皆様に提供している情報管理室。今回は、東博の情報の中枢を握るお仕事を紹介しましょう。

展示する部署があるのと同様、作品に付帯する情報を管理し公開する部署があるのです。

「情報管理室で扱っている情報は主に二種類あります。ひとつは、さまざまな文字情報、そしてもうひとつは文化財の画像情報です」

ではそうした情報とは、いったいどのくらいあるのでしょうか？

「東博の収蔵品は11万件以上。作品に関する文字情報が1件につき100字として、作品目録のデータだけでざっと1100万字以上。カラー画像は8万8000枚にのびります。カラー画像に関しては、ほぼすべてについてデジタル化されており、インターネット上で利用できる画像は今年度中に5万枚に達する予定です」。

情報をモデル化する

皆さんがこうした情報に簡単に接することができるのが、東博のウェブサイトです。館蔵品ギャラリーのページでは、主な作品の画像と解説が、また図書・写真検索ではより多くのデータや画像を自由にご覧いただくことができます。

博物館に直接来館しなくても、作

品を鑑賞したり、情報を得たりすることができるとがインターネットの強みであり、当館のホームページが好評をいただいているゆえんでもあります。

「データの作成にあたつて重要なのが、情報のモデル化です」と田良島さん。情報のモデル化とはいったい何を意味するのでしょうか。

「たとえば作品の目録では、作品に関する基本的な文字情報（メタデータ）が記述されていますが、その際、どんな情報をもりこむのか、どのように情報を整理するのか、について一定の決まりが必要になります。

例えば本であれば、著者名・タイトル・発行年月日・発行者を記述するというのが通例でしょう。

なぜ、メタデータを記述する際に一定の規格が必要かというと、そうすることによって複数の主体によって記述されたメタデータの相互運用が可能になるからです。わかりやすい例が、図書館の蔵書のデータです。図書館同士の相互検索はいまや当たり前のこと。これは、各図書館がある一定の規格にそってデータを作成しているからにはかなりません」

ということ、博物館の作品情報

にも一定の規格があるのですね。

「それが、そう簡単ではないのです。東博の所蔵品は考古遺物から近世の美術まで非常に幅広くそれぞれの持っている情報の質がまったく異なります。考古遺物は出土地や、発掘に関わる情報が重要です。いっぽうで、材質や技法の記述が欠かせない分野、作者についての情報が重要な作品などがあり、作品によってメタデータがばらばら。寸法ひとつとっても、縦横を記述するもの、高さが重要なもの、仏像の像高のようにどこからどこまでを測るかによってデータが異なるもの、とデータの取り方、記



資料構造化モデルの研究に取り組む村田良二さん



24時間空調のサーバ・ルーム。東博の情報の中枢だ



システム管理を担当する橋山惣一郎さん。コンピュータのリカバリ中。職員のマシンのメンテナンスも情報管理室のおしごと



システム管理を担当する山崎陽一さん。予期せぬサーバの不具合をチェック

述の仕方も実にさまざまなのです」

個々の研究者がそれぞれの分野の作品の研究をし、ばらばらにデータを作ってきたため、館内共通のデータベースはきちっとした形で完成されていない、というのが実情でした。東博の所蔵品だけをみても、それだけばらつきがあるのです。そこで、館内で情報を共通に管理するために、どんな情報を蓄積し、どう整理するのか、決まりを作る必要が生まれました。これが、情報のモデル化です。

そのモデルを複数の博物館・美術館で共有することができれば、館同士の情報交流も大変スムーズになるはず。いずれ、全国の博物館・美術館の文化財情報をオンラインで結び、簡単に検索できるようにしたい。それには、肝心の情報が一定の規格で登録されていなければ、システムはうまく機能しないのです。

東博では現在、情報管理室研究員の村田良二さんを中心に「ミュージアム資料情報構造化モデル」を開発中です。これは、東博が所蔵するあらゆるジャンルの作品のメタデータを分析し、それらのデータが実際にどう利用されているのか、業務の実態を綿密に調査したうえで、使いやすい情報モデルを設計、提案したものです。

「そこで心がけたことは、なるべく緩やかな秩序を作ることでした。

ばらばらの状態のメタデータのあり方をそのまま放置してはどうにもなりません、あまり厳しい基準のもとに統一するとそのデータのもっている豊かさが消えてしまうのです」と、田良島さん。

2005年11月11日、博物館情報学の研究会でこの「ミュージアム資料情報構造化モデル」を発表したところ、多くの反響がありました。もつとこうしたらいい、という意見もあれば、自分の館でぜひ使いたいという希望、さらには、このモデルを使ったソフトウェアを開発したいという企業からの申し出もありました。

「今後の課題は博物館や美術館でデータを作成する際に使える、実用的なソフトウェアの開発です」と、田良島さんは今後の抱負を語ってくれました。

画像の公開

さて、東博の情報のもうひとつの柱である画像について話を聞くことにしましょう。

「そもそも博物館の歴史においては、その始まりから、画像を制作して文化財を管理、研究、あるいは鑑賞し

ようという発想がありました。江戸時代に老中松平定信の作らせた『集

古十種』は全国の文化財を図に書き起こして編集・出版したものです」

と、田良島さんは歴史の研究者らしい説明をしてくれました。こうした図鑑の発想の延長線上に今日の写真があるのでしょう。東博では機会あるごとに収蔵品の写真を撮影し、画像資料を蓄積しています。

ところで、こうした画像は、研究活動や鑑賞の際にも活躍します。ご存知のとおり、博物館では、作品はガラスケースに入っていたり、裏側をお見せできなかったりと、展示上の制約によって見られる部分は限られています。また、文化財保護の観点からそれぞれの作品が実際に展示室に展示される機会も限られてしまいます。画像の公開はこうした事情に左右されずに行えるところが強み。

さらに、精度の高い画像や、赤外線撮影による画像では、人間の目では認識できないような情報を私たちにもたらしにくれることもあるのです。これらの画像に、先に述べてきた作品のメタデータや研究データを結びつけて蓄積していけば、それは東博にとって、いや日本文化にとっての大きな財産となるでしょう。

システム管理

実は、館内のさまざまなデータベースを機能させるためのシステムとハードウェアの保守・管理も情報管理室の仕事です。専門の職員が2名、サーバールームのある電算機室に勤務しており、サーバの監視および、館内のネットワークはもちろん、館外のネットワークとの中継についての管理を行っています。

館内で管理しているサーバは館内グループウェアのサーバ、収蔵品のデータベースのサーバ、ウェブサイトのサーバなど計9台。

これに加えて、個々の館員が扱うマシンの管理・メンテナンスの仕事も情報管理室の担当です。

いまや、館員の業務はすべてコンピュータがベースになっています。収蔵品に関わるデータもすべてサーバに蓄積されています。よって、情報管理

室が機能しなくなれば、博物館全体がすぐに機能不全に陥ることは必至でしょう。

博物館の未来に目を転じたときも、インターネットを利用した新たな事業展開や研究の推進の可能性を情報管理室が握っています。これからどんなふうに展開していくのか、みなさんどうか注目ください。

(構成 小林牧)



資料館閲覧室
美術書、展覧会カタログなど館が所蔵する図書資料および写真資料をご利用いただけます。資料の閲覧・複写・レファレンスのサービスを行っています。
開館：月曜日～金曜日 9:30～17:00 ただし、資料閲覧請求の受付は9:30～12:00、13:00～16:00
休館：土曜、日曜、祝日、毎月の末日（休日に当たる時はその前日）、年末年始
※利用は無料。西門からご入館ください。

◆本館 文化財保存コーナー誕生

私たちには（もちろんこの記事を読んでくださっているあなたにも）、文化財を大切に守り、次の世代に伝える使命があります。東博では、11万件をこえる文化財を伝えることと守ることを両立するために、科学、経験、伝統を組み合わせてながら最適な方法を探し出し、文化財の公開と保存に役立てています。この取り組みを東博では臨床保存と呼んでいます。こうした姿を皆様にひろく知っていただくために、文化財保存に関する展示コーナーを開設します。保存修復の意義を解説するパネル展示、作品や保存に関する道具などの実物展示、実際の修理工程や輸送など保存修理に関する映像で保存修復の世界を紹介いたします。

文化財にとって最善の処置を行うには、多くの費用と人的サポートが必要となります。ぜひ、当館の臨床保存をご理解いただき、ご協力を賜れば幸いです。2007年1月2日より、本館1階17室でお待ちしております。（神庭信幸）

確実なデータは地道な作業から



膨大な画像資料の整理と登録を行う写真整理室。右から、渡辺舞さん、佐竹裕子さん、インターンの北岡タマ子さん



フィルム収蔵庫で写真の整理。ひとつのキャビネットに4×5のポジフィルムが2万枚



撮影されたポジフィルムには一枚一枚鉄筆で登録番号を入れる



フィルムの外周の黒い部分に番号を入れる。作業は慎重に



番号登録完了。このあと画像はデジタルデータ化される。保管はフィルムとデータの2本立て

INFORMATION

コンサート開催のお知らせ

クリスマス・コンサート

※出演者が下記の通り変更になりました。
日時 12月10日(日) 14:30開場 15:00開演
会場 東京国立博物館 平成館ラウンジ
出演 ジャクリーン・カルペパー (リリック・ソプラノ)
ジョン・ファーガソン(ピアノ)
主催 東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
曲目 聖しこの夜、ラブソディー・イン・ブルー(ピアノソロ) ほか
料金 一般 6,000円 ペア 11,000円 250席／全席自由
※コンサート当日、平常展をご観覧いただけます。

「よみがえった明治建築」公開記念
中野振一郎によるゴルトベルグ変奏曲

日時 12月17日(日) 13:30開場 14:00開演
場所 東京国立博物館 表慶館
出演 中野振一郎(チェンバロ)
主催 東京国立博物館
曲目 イタリア風マリアと変奏、ゴルトベルグ変奏曲
料金 3,500円 130席／全席自由
※コンサート当日、平常展をご観覧いただけます。

歌と弦楽五重奏による
こんにちは、モーツァルトさん!

日時 12月20日(水) 18:30開場 19:00開演
場所 東京国立博物館 平成館ラウンジ
出演 青島広志(ナビゲーター、ピアノ)、横山美奈(ソプラノ)、
小野勉(テノール)、水野賢司(バリトン) ほか
主催 台東区芸術文化財団
共催 東京国立博物館
曲目 フィガロの結婚、魔笛、トルコ行進曲、ドン・ジョバンニ ほか
料金 3,000円(平常展観覧券付) 220席／全席自由
※お問い合わせ 台東区芸術文化財団 TEL 03-5828-7591

ニューイヤーコンサート2007

日時 2007年1月13日(土) 18:30開場 19:00開演
場所 東京国立博物館 平成館ラウンジ
出演 千葉純子(ヴァイオリン)、浦壁信二(ピアノ)
主催 東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
曲目 華麗なるポロネーズ第1番 op.4、チゴイネルワイゼン ほか
料金 4,000円(平常展観覧券付) 250席／全席自由

◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究・平常展・施設整備等の充実にあてております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より一年(入会月の翌年同月末日まで)有効。賛助会員には、特別会員と維持会員との二種類があります。

年会費
特別会員 100万円以上
維持会員 法人 20万円
個人 5万円

特典

- 特別展の内覧会にご招待
- 東京国立博物館ニュースの送付
- *賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。
- *お問い合わせ
東京国立博物館営業開発部 賛助会担当
TEL 03-3822-1111(代)

〈チケットのお求め方法〉

- 当館正門観覧券売場でのチケット販売
受付 開館日の9:30～閉館30分前(月曜休館)
- 電話予約販売
申込先 東京国立博物館 イベント担当 TEL 03-3821-9270
受付 月曜日～金曜日の9:30～17:00(祝日は除く)
引換時間 コンサート当日、当館正門観覧券売場にて現金引換にてお渡しします。
※「こんにちは、モーツァルトさん!」の電話予約販売は行いません。チケットは東京国立博物館のほか、東京文化会館チケットサービス、台東区芸術文化財団、チケットぴあで販売。
※各イベント詳細は、当館ホームページでご確認ください。※お車でのご来館はご遠慮ください。

ボランティア募集のお知らせ

◆平成19年度 生涯学習ボランティア募集

東京国立博物館では来館者の生涯学習の機会の増大とサービスの向上を図るためにボランティアによるさまざまな活動を行っています。館内案内、親と子のギャラリーや講演会などの運営補助、資料整理、ガイドツアーなど、博物館とお客様をつなぐ活動をしてみませんか。活動期間は2007年4月から3年間。応募受付期間は2007年1月10日(水)～1月31日(水)。詳細は、当館ホームページ(<http://www.tnm.jp/>)あるいは本館インフォメーションで。
※お問い合わせ 当館ボランティア室 TEL 03-3822-1111(代表)

プレゼントのお知らせ

◆東京国立博物館オリジナルカレンダー プレゼント

2007年の東博の国宝カレンダーができました。抽選で10名様にプレゼント。締め切りは12月20日(水)。カレンダーは年内にお届けします。

◆特別展「マールー楽園の神々」招待券プレゼント

本誌6ページで紹介した「マールー楽園の神々」の招待券を抽選で20組40名様にプレゼントします。締め切りは1月10日(火)。

※プレゼントの応募方法

はがきに、住所、氏名(ふりがな)、性別、年齢、職業、希望賞品(カレンダーか招待券のいずれか一方)、ならびにこの号でいちばん面白かった企画をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって替えさせていただきます。
〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館
広報室「ニュース12・1月号」プレゼント係



展示室一部閉室のお知らせ

展示ケースメンテナンスのため、2006年12月7日(木)～18日(月)は本館2階(7室のみ25日まで)を2006年12月18日(月)～2007年1月1日(月)は本館1階を閉室いたします。閉室期間中はご迷惑をおかけしますが、ご了承ください。

東京国立博物館賛助会員 2006年10月2日現在

特別会員 日本電設工業株式会社 様 東京電力株式会社 様 株式会社コア 様 株式会社精養軒 様 毎日新聞社 様 大日本印刷株式会社 様 株式会社 大林組 東京本社 様 朝日新聞社 様 株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様 株式会社 ミロク情報サービス 様 TBS 様 東京新聞・中日新聞社 様 株式会社 電通 様 読売新聞東京本社 様 クラブツーリズム株式会社 様 三菱商事株式会社 様 トヨタ輸送株式会社 様 維持会員 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様 早乙女 節子 様 株式会社 三冷社 様 宇津野 和俊 様 伊藤 信彦 様 井上 萬里子 様 田添 博 様 京葉匠 鶴屋吉信 様 株式会社 東京美術 様 服部 禮次郎 様 数内 匡人 様 岩沢 重美 様 高田 朝子 様 齋藤 京子 様 齋藤 邦裕 様 株式会社 安井建築設計事務所 様 株式会社 ナガホリ 様 佐々木 芳緒 様	藤原 紀男 様 小田 昌夫 様 吉岡 昌子 様 松本建設株式会社 様 関谷 徳衛 様 高橋 守 様 小澤 桂一 様 上久保 のり子 様 櫛田 良豊 様 株式会社 スタイルカフェ・ドット・ネット 様 長谷川 英樹 様 池田 孝一 様 木村 剛 様 観世 あすか 様 コクヨ株式会社 様 星埜 由尚 様 株式会社 鴻池組 東京本店 様 株式会社 アクタス 様 林 宗毅 様 安田 敬輔 様 久保 順子 様 渡辺 章 様 稲垣 哲行 様 堀江 磨紀子 様 帖佐 誠 様 株式会社 古美術数本 様 飯岡 雄一 様 峯村 協成 様 大嶋 道子 様 牧 美也子 様 高瀬 正樹 様 坂井 俊彦 様 寺浦 信之 様 高木 美華子 様 晩飯島工業株式会社 様 山岡 ユウ子 様 古屋 光夫 様	根田 穂美子 様 松本 澄子 様 池嶋 洋次 様 鷲塚 泰光 様 是常 博 様 上野 孝一 様 北山 喜立 様 謹慎書道会 様 社団法人 全国学校栄養士協議会 様 小笠原 繁 様 山田 泰子 様 原 桃介 様 近代書道研究所 様 佐野 英基 様 田村 久雄 様 日本畜産興業株式会社 様 有限会社 アートオフィスJC 様 高橋 徹 様 柴田 陸子 様 絹村 安代 様 高橋 良守 様 臼井 生三 様 津久井 秀郎 様 藤倉 光夫 様 神通 豊 様 永久 幸範 様 五十嵐 良和 様 池田 慶子 様 株式会社 東京書芸館 様 青山 千代 様 藤崎 英喜 様 永田 美香 様 西岡 康宏 様 東野 治之 様 辻 泰二 様
---	--	--

〈ほか31名3社、順不同〉

東京国立博物館友の会&パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート 一般 4,000円 学生 2,500円

発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます

◆お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で

友の会

加入者名(振替先)東京国立博物館友の会

口座番号00160-6-406616

*振替用紙には職業・年齢・性別・ご希望のプレゼント番号(パンフレット、ウェブサイトを参照)を楷書でご記入ください

パスポート

加入者名(振替先)東京国立博物館友の会

口座番号00140-1-668060

*振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入ください

*振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください

*振替手数料はお客様の負担となります

*郵便振替でのお申し込みには2週間かかります

◆問い合わせ

TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期購読をご希望の方は、年間(6冊分)1,000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名(振替先)東京国立博物館ニュース

口座番号00100-2-388101

*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください

*振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください

*振替手数料はお客様のご負担となります

*次号より送付ご希望の場合、締切は1月10日まで

東京国立博物館利用案内

開館時間 9:30~17:00、4月から12月の特別展開催期間中の金曜日は20:00まで、4月~9月の土・日・祝・休日は18:00まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日 毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日~1月1日、2007年1月4日)。ゴールデンウィークおよびお盆期間(8月13日~8月15日)は原則として無休

平常展観覧料金

一般600(500)円、大学生400(300)円

* ()内は20名以上の団体料金

*障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください

*満70歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

*講座・講演会、友の会・パスポートおよび本誌定期郵送等のお申し込みの際にご提供いただいた個人情報に関しては、当該の目的にのみ使用させていただくものです。当館では個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします



日本展会場にて。モンテリオールのスタッフ

スは全体的にやや低い位置にあり、土器の文様や質感が、つぶさに観察できる距離で見ることが出来ます。本展のカナダ側担当者ル

◆「モンテリオール考古歴史博物館」日本展
この十月十六日まで、カナダ・モンテリオール考古歴史博物館 ポワンタ・カリエールで当館の考古遺物の展覧会「日本展」が開かれました。当館の考古コレクションとしてまとまった展覧会を北米で開催するのはこれが初めてでしたが、大変好評を博し、会期中に来館者数は十七万人を超えました。

小ぢんまりとした会場に、先縄文の石器から古墳時代の埴輪までが並びます。当館の考古展示室を参考にデザインしたという埴輪のステージもありました。展示ケースは全体的にやや低い位置にあり、土器の文様や質感が、つぶさに観察できる距離で見ることが出来ます。本展のカナダ側担当者ル

◆本館の展示デザインが平成18年度「日本デザイン学会作品賞」を受賞
本誌6・7月号の博物館の舞台裏でも

「昔の日本人はみんなあのくらい小さかったのか」などの質問もあつたそうです。同館ショップの「日本」展開連グッズは一部完売でした。この夏のケベック州はちよつとした日本考古ブームだったようです。(鬼頭智美)

ご紹介した当館デザイン室による二〇〇四年九月の本館リニューアルの展示デザインが、「日本デザイン学会作品賞」を受賞しました。デザインとしての先見性と独創性を持ちつつ、総合的完成度を示す作品に贈られる賞で博物館におけるデザインの有効性が評価されたものです。次回お越しの際は、ぜひ展示空間や照明、サインにもご注目ください。現在の本館の空間については、「東京国立博物館 本館「日本ギャラリー」リニューアル」(木下史青)として日本デザイン学会「デザイン学研究作品集」11号(2005年)にも報告されています。

◆MUSEUM 604号

特集 歿後100年記念林忠正コレクション
ポール・ルヌアール

(平成18年10月15日発行)の掲載論文

①「ポール・ルヌアールと林忠正」木々康子(作家)

②「ポール・ルヌアールと十九世紀フランス挿絵」小勝禮子(栃木県立美術館)

③「ルヌアール素描コレクションの壮观」隠岐由紀子(帝京平成大学)

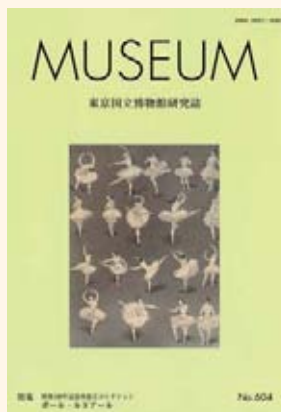
④「林忠正が明治美術界に示した指針」山梨絵美子(東京文化財研究所)

⑤「東京国立博物館所蔵 ポール・ルヌアール筆素描と版画」描画材料・技法および保存修理「土屋裕子(当館保存修復室)」

⑥「ルヌアール素描・版画コレクションの台紙に用いられた接着剤の化学分析」塚田全彦(当館環境保存室長)

作品リスト／林忠正、ポール・ルヌアール関係略年譜／林忠正関連文献抄

※特集陳列「歿後百年 林忠正コレクション」ポール・ルヌアール展(11月26日まで 平成館企画展示室)に関連した特集号です。



◆国立博物館の展示案内

〈京都国立博物館〉

新春特別展覧会「京都御所障壁画 御常御殿と御学問所」2007年1月6日(土)~2月18日(日)

〈奈良国立博物館〉

特別陳列 おん祭と春日信仰の美術 12月9日(土)~2007年1月21日(日)

〈九州国立博物館〉

プライスコレクション『若冲と江戸絵画』展 2007年1月1日(月)~3月11日(日)

2006年
12月

東京国立博物館 2006年12月・2007年1月の展示・催し物

2007年
1月

1 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00
2 SAT	座談会「文化財の保存と科学のちから」13:30 平成館大講堂 13:30 14:00 14:30 15:00
3 SUN	仏像 一木にこめられた祈り 最終日 14:00 14:30
4 MON	休館日
5 TUE	列品解説「写楽」14:00 本館10室
6 WED	14:00 14:30 14:00
7 THU	14:00 14:30
8 FRI	14:30 15:00
9 SAT	14:00 14:30 15:00
10 SUN	クリスマスコンサート 15:00 平成館ラウンジ *1 14:30
11 MON	休館日
12 TUE	
13 WED	14:30
14 THU	14:00 14:00 14:30
15 FRI	15:00
16 SAT	月例講演会「無形文化財の創生―「工芸」と「craft」をめぐる」13:30 平成館大講堂 13:30 14:00 14:30 15:00
17 SUN	中野振一郎によるゴルトベルグ変奏曲 14:00 表慶館 *1 12:30, 14:00 14:30
18 MON	休館日
19 TUE	列品解説「埴輪にみる古墳時代の女性像」14:00 本館1室
20 WED	歌と弦楽四重奏による こんにちは、モーツァルトさん! 19:00 平成館ラウンジ *1 14:30
21 THU	14:00
22 FRI	14:30 15:00
23 SAT	15:00
24 SUN	14:00 14:00 14:30
25 MON	休館日
26 TUE	
27 WED	
28 THU	休館日
29 FRI	休館日
30 SAT	休館日
31 SUN	休館日

1 MON	休館日
2 TUE	博物館に初もうで 獅子舞 10:30, 13:00 本館前 和太鼓演奏 11:00, 15:00 正門内池前 悠久の美 江戸の遊芸 12:00, 13:30 正門内池前
3 WED	獅子舞 10:30, 13:30 本館前 和太鼓演奏 11:00, 14:30 正門内池前 クラリネットコンサート 12:00, 15:30 東洋館エントランスホール
4 THU	休館日
5 FRI	
6 SAT	「悠久の美」関連事業 講演と朗読の会 13:30 平成館大講堂 *2
7 SUN	新春東博寄席 13:30 平成館大講堂 *3
8 MON	
9 TUE	休館日
10 WED	14:00 14:30 14:00
11 THU	14:00 14:00 14:30
12 FRI	14:30 15:00
13 SAT	ニューイヤーコンサート2007 19:00 平成館ラウンジ *1 14:00 14:30 15:00
14 SUN	14:00 14:30
15 MON	休館日
16 TUE	列品解説「西アジアと中国の彩文土器」14:00 東洋館第4室
17 WED	14:30
18 THU	14:00 14:30
19 FRI	15:00
20 SAT	月例講演会「浅井忠と明治期の洋画」13:30 平成館大講堂 13:30 14:00 14:30 15:00
21 SUN	12:30, 14:00 14:00 14:30
22 MON	休館日
23 TUE	マーオリ―楽園の神々― 列品解説「湯島聖堂伝来釈尊像」14:00 本館14室
24 WED	14:00 14:30 14:00
25 THU	14:00 14:30
26 FRI	14:30 15:00
27 SAT	記念講演会「中国考古学五千年」13:30 平成館大講堂 *2 14:00 14:30 15:00
28 SUN	14:00 14:00 14:30
29 MON	休館日
30 TUE	列品解説「インドの細密画」14:00 東洋館第3室
31 WED	「発掘へんろー讃岐編」展示解説 11:00, 14:00 14:00 14:30

2/25まで 3/18まで

- 人 = ボランティアによる本館ハイライトツアー、集合場所: 本館1階エントランス
- 日 = ボランティアによる浮世絵版画展示ガイド、集合場所: 本館1階エントランス
- 日 = ボランティアによる陶磁エリアガイド、集合場所: 本館1階エントランス
- 人 = ボランティアによる彫刻ガイド、集合場所: 本館1階エントランス
- 人 = ボランティアによる樹木ツアー、集合場所: 本館1階エントランス
- 日 = ボランティアによる考古展示室ガイド、場所: 平成館考古展示室入口
- 人 = ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド、場所: 法隆寺宝物館1階エントランス

- 日 = ボランティアによる応挙館茶会、集合場所: 本館1階エントランス
(参加費500円、先着30名様、開始1時間前に本館1階で整理券配布)
 - 日 = ボランティアによる庭園茶室ツアー、集合場所: 本館1階エントランス
(先着25名様、開始1時間前に本館1階で整理券配布)
 - 人 = ボランティアによる英語ガイド(本館ハイライト)、集合場所: 本館1階エントランス
- *1は有料イベントです(本誌14ページをご覧ください)
*2は事前申込制、詳細は本誌5ページをご覧ください
*3詳細は本誌2ページをご覧ください
*上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください。
*屋外で実施するツアー・ガイドは雨天の場合中止することがあります。